

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	石川の優れた文化の継承・発展	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	109,831 (H27)	108,895 (H28)	A
施策2	文化に親しむ環境づくり	兼六園周辺文化施設入館者数	人	816,000 (H29)	895,525 (H27)	874,147 (H28)	B

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題						課題に対する主な取り組み					評価				
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性			
					(年度)	(年度)									
施策1	課題	石川の優れた文化の継承と発展	美術館入館者数	人	467,500 (H29)	448,456 (H27)	434,451 (H28)	1	美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	20,763	19,921	B	継続	
								2	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業費	一般県民	296	293	B	継続	
			3	歴史博物館特別展示費	一般県民	27,805	27,165	A	継続						
			4	石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,137	12,778	A	継続						
			兼六園周辺文化施設入館者数	人	816,000 (H29)	895,525 (H27)	874,147 (H28)	5	文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	2,000	1,906	A	拡大	
								6	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	一般県民	6,500	6,500	A	継続	
								7	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	12,000	11,281	B	見直し	
			音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	109,831 (H27)	108,895 (H28)	8	伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	3,800	3,800	B	継続	
								再	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	12,000	11,281	B	見直し	
			9	ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数	団体	45 (H29)	44 (H27)	- (H28)	9	ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	2,300	2,300	B	継続
			芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,500 (H28)	12,235 (H27)	13,700 (H28)	10	文化活動支援事業費	一般県民	80,000	63,739	B	継続	
								11	いしかわの音楽鑑賞事業費	一般県民	5,000	3,500	B	拡大	
12	いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	4,000 (H28)	3,029 (H27)	3,277 (H28)	12	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	一般県民	15,820	15,820	B	継続			
施策2	課題	文化に親しむ環境づくり	兼六園周辺文化施設入館者数	人	816,000 (H29)	895,525 (H27)	874,147 (H28)	13	兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	一般県民	19,000	19,000	A	継続	
								再	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	一般県民	6,500	6,500	A	継続	
								再	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	12,000	11,281	B	見直し	
			再	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	109,831 (H27)	109,173 (H28)	再	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	12,000	11,281	B	見直し
			14	ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	人	100,000 (H28)	122,024 (H27)	109,609 (H28)	14	ラ・フォル・ジュルネ金沢開催事業費	一般県民	53,000	46,750	A	廃止

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	石川の優れた文化の継承・発展	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	109,831 (H27)	108,895 (H28)	A
施策2	文化に親しむ環境づくり	兼六園周辺文化施設入館者数	人	816,000 (H29)	895,525 (H27)	874,147 (H28)	B

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題						課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
		再 芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,500 (H28)	12,225 (H27)	13,700 (H28)	15 子どものための音楽文化推進事業費	小学生	3,000	4,067	B	継続
							16 子ども芸術鑑賞推進事業費	小中学生	4,231	4,209	B	継続
							17 県民移動能実施事業費	小中学生	3,000	3,000	B	継続
							18 障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	一般県民	1,000	1,000	B	継続
							再 文化活動支援事業費	一般県民	80,000	63,739	A	継続
		音楽堂入場者数	人	265,000 (H29)	262,241 (H27)	246,883 (H28)	19 音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	継続
							20 地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
							再 子どものための音楽文化推進事業費	小学生	3,000	4,067	B	継続
		再 美術館入館者数	人	467,500 (H29)	448,456 (H27)	434,451 (H28)	再 美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	20,763	19,921	B	継続
		再 歴史博物館入館者数	人	112,000 (H29)	185,206 (H27)	164,597 (H28)	再 歴史博物館特別展示費	一般県民	27,805	27,165	A	継続
		再 石川四高記念文化交流館入館者数	人	173,100 (H29)	187,385 (H27)	199,458 (H28)	再 石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,137	12,778	A	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度	S58	事業終了予定年度		作 組 織	県立美術館
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 新保 勝也
						電 話 番 号	076 - 231 - 7580 内線 6510

1 事業の目的

美術に対する理解を深めるため、特定のテーマに基づく作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。
また、こうした場を提供しつつ、兼六園周辺文化の森に立地する特長を生かし、憩いの空間として県内外のお客様に広く親しまれる美術館となることを事業の目的とする。

2 事業の概要

(1) 寄付受納記念「脇田和」展

- ① 会 期 : 平成28年4月24日～5月15日(会期 22日間)
 ② 内 容 : 現代日本洋画壇最高峰の一人で文化功労者の脇田和は、鳥や子供を題材に詩情豊かな作品を描き続けた。脇田和没後10年に際し、遺族より脇田が自己の代表作とセレクトした油彩、素描、版画作品317点の寄贈を当館は受けることとなった。脇田家は明治維新前は加賀藩祖以来藩士として前田家に仕えてきたこともあり、本県とのゆかりは深く、こうした縁が今回の一括寄贈につながった。本展はこうした受贈を記念して、初期から晩年までの代表作約120点を公開し、脇田芸術の軌跡をご覧いただくものである。

(2) 「近代美術の至宝」展

- ① 会 期 : 平成28年9月10日～10月23日(会期 44日間)
 ② 内 容 : 明治・大正・昭和・平成の各時代を代表する作家の名品により、明治より今日に至る150年の日本美術の歩みを辿る。文化勲章受章者、芸術院会員、人間国宝等の美術家による日本画・洋画・彫刻・工芸の名品約150点を展示し、個々の名品が持つ美の世界を堪能していただくとともに、近現代日本美術の歩みと、各時代を通じて滔滔と流れる日本美の本質に触れる事を目的とする。

(3) 「絵画にみる江戸の暮らし」展

- ① 会 期 : 平成29年1月4日～2月12日(会期 40日間)
 ② 内 容 : 平成17年、故久世重勝氏の収集になる3016枚の寄贈を受けた浮世絵コレクション展覧会で、内容は、葛飾北斎・歌川広重・喜多川歌麿・歌川国貞・歌川国芳ら人気作家を網羅した、風景画から美人画、役者絵など多岐にわたるものである。10年ぶりの公開となる今回は、浮世絵の展示にとどまらず、そこに描かれた四季の移ろいと人々の暮らし、旅と景色、相撲に歌舞伎会といった江戸時代の風俗・娯楽も紹介する展覧会とする。

施策・課題の状況

施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展		
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり		
指標	美術館入館者数	単位	人
目標値	現状値		
平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
平成27年度	平成28年度		
467,500	408,642	511,440	409,127
	448,456		434,451

事業費

(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	19,949	31,528	17,316	56,354	20,763
	決算	20,189	31,140	16,254	52,712	19,921
一般	予算	6,468	6,144	6,144	7,344	5,063
財源	決算	8,035	3,126	7,668	22,923	13,106
事業費累計		19,949	51,477	68,793	125,147	145,910

評価

項目	左記の評価理由	
事業の有効性	B	<p>日本美術の流れの上で評価される内外の美術品及び石川県に関係ある優れた美術品や貴重な文化財を鑑賞できる機会を提供することは、県民に芸術・文化の素晴らしさを伝えるとともに豊かな心を育むうえでも有意義なことである。</p> <p>H28美術館入館者目標 452,300人 実績 434,451人 入館者数が減となったのは、H27年度は北陸新幹線開業を見据えた、大規模な企画展が多かったが、H28年度は規模も前年度に比べ小さく、会期等も短かったことにより、入館者数が伸び悩んだため。 また、新幹線開業後の、県外からの来館者数が一段落したことも、入館者数が減少した一因である。</p>
今後の方向性	継続	<p>来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することで、美術館のより一層の入館者増を目指す。</p> <p>また、学芸員による展示解説や子供に対する普及活動の充実にも努め、県民に親しんでいただける美術館として、魅力を高めつつ、郷土の優れた美術品を後世に伝えられるよう、その保存にも万全を期したい。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業費	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	-	作 成 者	組 織	美術館	
		根拠法令 ・計画等					職・氏名	企画管理専門員 新保勝也	

事業の背景・目的
美術館リニューアルオープンに併せ、「尊経閣文庫分館」が開設されたことを受け、前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品の素晴らしさを県民に紹介するためのPR事業を積極的に展開し、「尊経閣文庫分館」の周知と観覧者の増加を図る。

事業の概要
1 文化講座の開催

前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品収集に力を注いだ加賀藩歴代藩主の姿を、前田家に関わる人及び他の大名家との比較を通して、深めていく連続講座として開催する。

開催回数	年3回		
講 師	歴史家、郷土史家等の著名人(予定)		
講座概要	第1回 金沢城の絵図	講師 石川県金沢城調査研究所	石野 友康 氏
	第2回 加賀藩江戸本郷邸について	講師 東京大学埋蔵文化財調査室	小松 愛子 氏
	第3回 加賀藩の女性達	講師 石川郷土史学会幹事	横山 方子 氏
会 場	石川県立美術館ホール		
対 象 者	一 般		
定 員	各回200人		
特 典	講座参加者は、講座当日の常設展観覧料は無料		

2 尊経閣文庫のパンフレット作成

前田育徳会尊経閣文庫の文化財等所蔵品の素晴らしさを県民に紹介するため、PR用パンフレットを作成する。

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	467,500	408,642	511,440	409,127	448,456	434,451
事業費						
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	750	639	462	370	296
	決算	749	594	462	370	293
一般	予算	750	639	462	370	296
	決算	749	594	462	370	293
事業費累計		5,750	6,389	6,851	7,221	7,517
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性		B	前田育徳会及び尊経閣文庫が保存管理する加賀藩主前田家伝来の文化遺産は、古書籍、古美術品や刀剣など1万4,000点にもものぼる。文化講座の開催及びパンフレットを公民館や大学等教育機関に幅広く配布することにより、県民の方々に尊経閣文庫を知っていただき、そのすばらしさや歴史的価値の周知に努めた。28年度は加賀藩主前田家の講座を3回開催し、約350人が受講した。(H27年度比+25人)			
	今後の方向性	継続	尊経閣文庫分館の魅力を高めることは美術館の集客アップにもつながることから、今後も加賀藩の歴史と豊かな文化を伝える講座の開催やPR活動の充実に努めることにより、尊経閣文庫分館を鑑賞する機会を広げていく。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館特別展示費	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作	組	織	歴史博物館
成	職	氏名	総務課担当課長 皆戸 靖彦
者	電話番号		076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 常設展とは別に独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となるよう郷土の歴史の展示公開を通して歴史の一端を紹介する。

1 特別展
(1) 春季特別展 (事業費:9,281千円)
 テーマ:「加賀・能登王墓の世界」
 時期:平成28年4月16日(土)～5月22日(日) 37日間
 主旨:石川県の古代には、津幡町加茂遺跡から出土した「加賀郡勝示札」に記された道君のように、有力な地方豪族が割拠し、加賀国や能登国が成立する社会的基盤を形作ってきた。この展覧会では、県内の古墳から出土した豪華な副葬品など、豪族たちの活動の様子を物語る資料を展示し、統一国家ができあがった時代にあっても、地方色豊かな古代文化が花開いた加賀・能登の国の始まりを紹介する。

(2) 夏季特別展 (事業費:6,025千円)
 テーマ:「セラミックス・ジャパン -陶磁器でたどる日本のモダン-」
 時期:平成28年7月23日(土)～8月28日(日) 37日間
 主旨:近代日本において、陶磁器製造は数少ない世界に誇りえる品質とデザインを備えていた。ジャポニスムに迎えられて世界市場に打って出て以来、不断に自ら新しい進路を切り開いてきた。本展では、「クールジャパン」の原点ともいえる近代の陶磁器産業の歩みを紹介する。陶磁器の展覧会のほとんどが、古美術品展や茶器展のような美術鑑賞を目的としたものでしめられる中今回の展示は、近代日本における陶磁器造りの歴史を包括的に紹介する国内初の企画となる。陶磁器産業に深くかかわる石川・岐阜・兵庫・東京計4館による共同企画。

(3) 秋季特別展 (事業費:12,499千円)
 テーマ:「城下町金沢は大にぎわい！」
 時期:平成28年9月17日(土)～11月6日(日) 51日間
 主旨:本展覧会では、城下町金沢に関する最新の研究成果を紹介するとともに、これまであまりスポットが当てられてこなかった城下町金沢の娯楽文化を紹介する。金沢の人々が楽しみとした寺社の御開帳や祭礼、歌舞伎に代表される芸能などを、実物資料・空間再現・アトラクションなどを通して体験してもらおう体感型展覧会となる。
 また会期中、ハレの楽しみを味わえるさまざまな大衆芸能も公演する。

2 大型巡回展
(1) 北國新聞社主催「日本画逍遙展」
 期間:6月1日(水)～7月3日(日) 33日間
 内容:北海道立近代美術館名品選(横山大観・下村観山など)

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	A			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	B			
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	歴史博物館入館者数	単位	人		
	目標値		現状値			
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	112,000	72,388	-	-	185,206	164,597

事業費						
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	5,180	0	4,637	39,307	27,805
	決算	6,054	-	2,470	39,113	27,165
一般	予算	1,533	0	4,637	19,468	9,473
財源	決算	994	-	2,470	19,220	6,886
事業費累計		189,810	189,810	192,280	231,393	258,558

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; float: left; margin-right: 10px;">A</div> 左記の評価の理由 リニューアル前に比べて展示規模を拡大させ、さらに様々な関連事業を実施し、春季特別展は7,536人、夏季特別展は3,408人、秋季特別展は12,747人の観覧者があった。リニューアルに伴う入館者数の増は一段落したものの、目標としていたH29入館者数を依然大きく上回っている。また館内アンケートでも満足したという意見が大半をしめ(H28:94.7%)、想定以上の成果がでている。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; float: left; margin-right: 10px;">継続</div> 展覧会事業は博物館の中核事業である。今後も石川県の歴史や文化の魅力を新たな視点から発信するとともに、歴史や文化にさまざまな人々に親しんでもらえるよう事業に工夫をくわえていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	織	石川四高記念文化交流館		
成	職	氏名	企画管理専門員 橋本 秀幸		
者	電話番号	076 - 262 - 5464			

事業の背景・目的

石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々にご利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

- 1 石川四高記念館
 - ・施設の概要
 - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
 - ・主な事業
 - 常設展示(4室)
 - 企画展の実施
 - 「四高柔道部に見る肉体派の『超然主義』」
 - 小中学校絵画展
 - 三文豪館とのスタンプラリー
 - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年4回) など

- 2 石川近代文学館
 - ・施設の概要
 - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(公益財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
 - ・主な事業
 - 常設展示(8室)
 - 企画展の実施
 - 「作家といきもの」 (4/23~8/21)
 - 徳田秋声は猫を、室生犀星は犬と猫を飼っていたなど、動物を飼っていた石川ゆかりの作家は少なくなく、作家と犬や猫との関わりを中心に、動物を題材とした文学作品などを紹介し、作家を身近に感じていただく。
 - 「作家と山山ー日本文学百名山ー」 (9/17~11/27)
 - 日本の文学は、古くから、神々の住まう場所としての「山」を多くの作品に取り入れてきた。本年は、「山の日」が設けられる年でもあり、日本人の心と切っても切れない「山」の文学を紹介する。
 - 「作家と石川近代文学館ー文学館を支えた人たち」 (1/7~3/18)
 - 文学館の開館から四高本館への移転開館の頃までを、開館時に尽力いただいた作家や新たに展示作家に加わっていただいた方々の文学資料を紹介する形で、開館以来47年にわたる文学館の歩みを振り返る。
 - ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況

施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	A			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	B			
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	石川四高記念文化交流館入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	173,100	134,003	144,221	167,912	187,385	199,458

事業費

(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	15,754	15,289	16,137	16,137	16,137
	決算	15,511	15,133	15,550	12,633	12,778
一般	予算	12,354	12,455	12,517	12,517	12,517
	決算	12,851	13,128	13,455	8,440	10,099
事業費累計		76,239	91,372	106,922	119,555	132,333

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	石川四高記念館においては、全国赤レンガ建物展などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ新三々塾」や朗読会などを行い、全体の利用者も前年度を上回り、金沢中心部における賑わいの創出に貢献した。 H28入館者数:199,458人(H27比+12,073人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	企画展の実施や機をとらえた常設展の展示替えなどを行い館の魅力を高めていくほか、県内外の小中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化財保存修復工房魅力発信事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	-	作 組 織 文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名 主事 近藤 葉月 者 電話番号 076 - 225 - 1371 内線 3845

事業の背景・目的
文化財保存修復工房リニューアルオープンに併せ、新たに整備された「ガイダンス室」や「見学スペース」を活用しながら、誘客を促進し、県民や観光客など多くの方々に、文化財の保存修復の大切さやいしかわの修復技術の高さを知っていただくための事業を実施する。

事業の概要

- ① 工房や広坂別館での体験イベント等の充実
※四季折々に開催するミュージアムウィーク期間中に実施
(具体例)
 - ・修復工房特別ガイドツアー【春・秋】
 - ・子ども修復体験事業【夏】
 - ・修復文化財の特別展覧会、講演会【冬】
 - ・ミュージアムコンサート【春】や茶会【冬】
- ② 周辺文化施設等と連携した取組み
(具体例)
 - ・修復文化財の特別展示、鑑賞会(歴史博物館)
 - ・歴史博物館、四高記念文化交流館などの周辺施設において、修復工房の紹介や解説のパネル等を展示
 - ・大学との連携
- ③ 来館者の増加に向けたPR
(具体例)
 - ・誘導案内標識の整備
 - ・利用促進に向けたPR、情報発信の強化

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	816,000	673,840	712,928	629,163	895,525	874,147
事業費						
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算					2,000
	決算					1,906
一般	予算					2,000
	決算					952
事業費累計						2,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	ミュージアムウィークと連携し、特別ガイドツアーや子ども修復体験など様々な体験イベント等を行った。文化財の保存修復を実際に見たり体験する機会を提供することにより、文化財の保存修復の大切さやいしかわの修復技術の高さを知っていただくことに寄与している。 県立美術館広坂別館・文化財保存修復工房のH28年度の入館者は、これまでで最多の32,888人(H26年度比+8,621人 H27年度はリニューアルのため休館)となった。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	体験イベント等を充実させ、県民・観光客等に向けた魅力発信や誘客促進を図っていく。さらに、設立20周年を記念したシンポジウムの開催、文化財関係者に向けた普及啓発、全国学会や鷹峰フォーラムに合せた全国へのPRなど、修復拠点としての専門的な情報発信も行い、石川県独自の施設として更なる発展を目指す。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」 普及啓発事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 近藤 葉月		
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3845			

事業の背景・目的

県民の文化意識の向上を図るため、「いしかわ文化の日」及び「いしかわ文化推進期間」の期間中、各種イベントの集中実施及び各施設・市町と連携した一体的なPRにより、多くの県民が文化に親しむことのできる機会を創出し、文化施設のさらなる利用促進と県民の文化意識の向上を図る。

事業内容

(1) 「いしかわ文化の日」普及事業

ア いしかわ文化の日記念イベントの開催

- ・会場：音楽堂邦楽ホール(700人)
- ・内容：①地域伝統芸能(次代の担い手)による公演
輪島太鼓(虎之介)、山代大田楽(山代わざおぎ)
- ②「風間杜夫」落語・トークステージ
- ③知事挨拶

イ 文化施設の県民入場無料の普及・啓発

- ・県内文化施設の当日県民入場無料化(100施設)
- ・啓発チラシの作成、配布

(2) 「いしかわ文化推進期間」普及事業

ア 金沢・加賀・能登の周遊を促すスタンプラリーの実施

- ・県内文化施設来場者を対象としたスタンプラリーを実施
- ・複数の文化施設来場者に景品を交付

イ 協賛事業イベントガイドの作成(協賛事業数：147事業)

- ・期間中に実施される県内の文化イベント情報を取りまとめた冊子の作成、配布
- ・文化施設、観光施設、商業施設等に設置

ウ 協賛事業を一体的にPRするロゴマークの作成

- ・一般公募により作成
- ・イベントガイドの他、各種イベントパンフレット等に活用

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり					
指標		兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
目標値		現状値				
平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
816,000	673,840	712,928	629,163	895,525	874,147	
事業費						
(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算				5,000	6,500
	決算				5,000	6,500
一般	予算				5,000	6,500
財源	決算				5,000	6,500
事業費累計		0	0	0	5,000	11,500
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「いしかわ文化の日」では、文化施設の県民入場無料化及び記念イベントを開催、「いしかわ文化推進期間」では、県内各地で文化イベントを集中実施し、県民の文化に親しむ機会の充実と文化意識の向上を図ることに寄与している。 ・「いしかわ文化の日」 県民入場無料施設数100施設(H27+21施設) 入館者数52,329人(H27+7,871人) ・「いしかわ文化推進期間」19日間(H27+2日) 文化施設入館者数438,225人(H27+7,716人) 協賛事業数147事業(H27+20事業)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県内全域の文化活動を一層盛り上げていけるよう、民間の文化施設にも協力を働きかけながら、加賀・能登の文化施設の利用促進と回遊性の向上に取り組んでいく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 寺田 陽亮			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3851			

事業の背景・目的

文化振興条例施行元年である平成27年度には、次代の文化の担い手となる小中学生を対象に、実際に石川の豊かな伝統芸能に触れる機会を創出し、これまで以上に本県の伝統芸能に対する関心が高まった。条例施行2年目となる本年は、これまで実施してきた伝統芸能文化に加え、美術・音楽・伝統芸能・伝統工芸など幅広い分野で、次代を担う子どもたちに対し、多彩な文化体験メニューを提供する。

事業の概要

平成28年度事業展開

ポイント

(1) いしかわ文化振興条例に謳う、本県の優れた分野を網羅する形で、子どもの文化体験事業を拡充
 (2) 「兼六園周辺文化の森」を「子どもの文化体験のメッカ」と位置づけ、ミュージアムウィーク時期を中心に実施
 (3) 文化体験事業のプログラム化により、体験講座を一覧として提示し、参加実績に応じて特典を付与し、インセンティブを与える

事業概要

(1) 主な文化体験チャレンジプログラム

- **美術・歴史・文学等**
 - ・地元芸術家・学芸員等の指導により多彩な芸術への理解を深める
絵画・彫刻等の体験教室 など
- **音楽文化**
 - ・地元音楽家を講師とした楽器演奏体験教室 など
- **藩政期以来培われてきた伝統芸能**
 - ・子どもいしかわ伝統芸能体験教室(能楽、日本舞踊、箏などの体験教室) など
- **伝統工芸**
 - ・工芸王国石川が誇る伝統工芸の技術を伝統工芸士等から学ぶ蒔絵、竹細工などの体験教室 など
- **食文化**
 - ・地域で受け継がれてきた伝統的な食文化を郷土料理研究家等から学ぶ祭り寿司、和菓子作り等の体験教室 など

● **生活文化**
 ・暮らしに根ざした生活文化や古くからの娯楽文化を郷土歴史家・先生から学ぶ茶道や、着物の着付け など

● **文化財保護**
 ・文化財の修復作業体験教室(学習+虫喰いの繕い等の作業体験) など

**(2) いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール
 ～進め！出世街道～**

文化体験の参加実績により、スタンプを押し、それを一定数集める事により、称号と記念品を付与する。
 <称号> ①足軽(スタンプ1個)
 ②侍大将(スタンプ4個)
 ③文化家老(スタンプ8個)
 ④文化大名(スタンプ12個)
 ⑤いしかわ文化将軍(スタンプ16個)
 <景品> 伝統工芸品やミュージアムグッズ等

※実施期間
年間を通じて開催する。

これまでの見直し状況

平成27年度に行った「いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業」で実施した伝統芸能体験に加え、音楽や伝統工芸などの100を超える多彩な文化体験を提供することとした。

施策・課題の状況							
施策	石川の優れた文化の継承・発展					評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展						
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり						
指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人	
目標値	現状値						
平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
816,000	673,840	712,928	629,163	895,525	874,147		
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人	
目標値	現状値						
平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
113,500	108,960	111,144	94,229	109,831	109,173		

事業費					
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費				5,000	12,000
予算					
決算				1,810	11,281
一般				0	12,000
財源					
予算				0	5,641
決算					
事業費累計	0	0	0	1,810	13,091

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
<p>事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">B</p> <p>兼六園周辺文化の森を中心とした文化施設において、子どもを対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、伝統芸能をはじめとする幅広い分野に興味を持ち始めるきっかけを作ることにより、文化のすそ野の拡大に寄与している。</p> <p style="text-align: center;">H28参加者数 延べ22,452人</p>
<p>今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">見直し</p> <p>体験施設が兼六園周辺文化の森周辺に偏っていること、また、伝統工芸・芸能の人気が高い(伝統工芸の定員に対する倍率4～10倍)ことを踏まえ、兼六園周辺文化の森以外で行っている文化体験を積極的にスタンプラリーの対象とし、県内の文化施設等での文化体験を充実させる。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 毛利 優子		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室
 - ②実施期間等
平成28年10月～平成29年3月の実施期間内に年27回開催(3茶屋街×9回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	113,500	108,960	111,144	94,229	109,831	108,895

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費						
(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算		3,000	3,000	3,500	3,800
	決算		3,000	3,000	3,500	3,800
一般	予算		3,000	3,000	0	0
	決算		3,000	3,000	0	0
事業費累計		0	3,000	6,000	9,500	13,300

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「金沢芸妓の舞」は、藩政期から受け継がれてきた金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会を県民や県外からの観光客に提供しているほか、公演回数を確保することにより金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 金沢芸妓の舞入場者数 H28:1,446人(H27:1,336人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多くの県民や県外からの観光客に、茶屋文化に気軽に親んでもらい、芸妓文化を保存・継承し、さらに磨きをかけていくことは大変重要であることから、今後も「金沢芸妓の舞」の上演を通じ、芸妓文化の一層の伝承、発展を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 田中 結		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的

県民の文化理解の向上を促進するとともに、本県の質の高い文化を県内外に発信する。これにより、県民が郷土に誇りを持ち、文化活動を通じ、活力ある地域づくりに自発的、積極的に参画する機運を醸成する。

事業の概要

- 1 実施主体 2017ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備委員会、石川県、(一財)石川県芸術文化協会
- 2 実施時期 平成29年秋
- 3 会 場 県下一円(県立音楽堂、赤羽ホールを中心とする公共ホール)
- 4 事業内容
 - (1) 芸術祭の中心となる音楽公演
 - (2) 本県ゆかりの芸能等公演
 - (3) 芸術文化団体による公演
 - (4) 協賛事業(芸術祭の趣旨に賛同する会期中の市町村、公共ホール自主事業、ただし財政的な支援はなし)
- 5 参加団体数 約45団体
- 6 事業費 負担金2,300千円
(交付先:2017ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備委員会)

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体者数			単位	団体
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	45	準備年度	45	準備年度	44	準備年度
事業費						
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
	決算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
一般財源	予算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
	決算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
事業費累計		396,400	450,400	452,700	506,700	509,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	平成4年度の国民文化祭、平成7年度のいしかわ秋の芸術祭、平成9年度の文化庁芸術祭石川公演の成果を生かし、隔年ごとに県内各地で音楽公演などを実施することにより地域文化活動の活性化を図り、本県の文化の発展に寄与してきたところである。また、開催毎に事業数は増加傾向にあり、本県の芸術文化を県内外に発信する事業として浸透している。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県では、2年に1度の総合的な文化芸術イベントとして、広く認知されているほか、本県の様々なジャンルの文化芸術団体の育成の場、発表の場として重要性が増していることから、今後も本県文化芸術の素晴らしさをアピールする場として、継続実施していく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 文化活動支援事業費	事業開始年度 H27	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	いしかわ文化振興条例

作 組 織	文化振興課
成 職・氏名	主任主事 高川 和也
者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3844

事業の背景・目的
 県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる向上と裾野の拡大を図る。

事業の概要

事業名	文化活動支援事業	
	文化創造普及事業	地域文化活性化事業
対象事業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する事業(新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する事業(新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に事業認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助成率	最大で全体事業費の1/2	
	※次の①②のいずれか小さい額の範囲内かつ助成限度額の範囲内 ① 助成対象経費 × 1/2 ② 事業費 - 事業収入(入場料収入等)	
助成限度額	団体自己負担の1/2以上を地元市町が補助	
	最大 300万円(3年間) 〔 1年間事業 10~100万円 2年間事業 20~200万円 3年間事業 30~300万円 〕	最大150万円(3年間) 〔 毎年度 5~50万円 〕
申請方法	基金へ直接申請	市町を経由して申請
審査方法	民間有識者等による選考委員会において審査	

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展				評価	
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり				評価	
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
目標値	現状値					
平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
13,500	12,679	11,609	13,200	12,225	13,700	

※いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費 予算				80,000	80,000
事業費 決算				61,531	63,739
一般 予算				0	0
財源 決算				0	0
事業費累計		0	0	61,531	125,270

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	平成28年度事業では、文化団体の創意溢れる様々な取り組みを新たに43件認定・助成し、平成27年度認定事業と併せ、76件の助成事業が県内で実施された。美術や伝統芸能、伝統工芸、生活文化、ふるさと文化など、多様な分野での活用が広がっており、文化団体の自主的・主体的な活動を促進することで、本県文化の更なる向上と裾野の拡大に寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県の優れた文化の更なる発展・継承を図るためには、これまでの継続的な文化活動に加え、創意あふれる新たな取り組みを通じた、担い手の研鑽と後継者の育成、及び県民の文化に親しむ機会の充実が不可欠であることから、引き続き本事業を通じて、文化団体のこうした自主的・主体的な活動の支援を継続する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	専門員 橋岡 千春			
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847			

事業の背景・目的

定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

事業の概要

内容 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 ①「夏の観能の夕べ」
 日時 平成28年7月2日～8月27日 毎週土曜日
 午後6時30分～午後8時30分
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)
 ②「冬の観能の夕べ」
 平成29年1月～3月の期間中 全5回(土曜日)
 午後2時30分～午後4時30分
会場 石川県立能楽堂
主催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
対象 一般
入場料 ①「夏の観能の夕べ」
 特別公演 3,000円/回
 一般公演 1,000円/回
 ②「冬の観能の夕べ」
 前売り 1,000円/回
 当日 1,200円/回

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	A
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	13,500	12,679	11,609	13,200	12,225	13,700

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	3,500	3,500	3,500	5,000	5,000
予算	3,500	2,994	2,280	6,200	3,500
決算	3,500	3,500	2,280	0	0
一般	3,500	3,500	2,280	0	0
財源	3,500	2,994	3,500	0	0
決算	3,500	2,994	3,500	0	0
事業費累計	64,851	67,845	70,125	76,325	79,825

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより能楽師の技術向上にも貢献している。 観能の夕べ入場者数 H28:3,772人(H27:3,613人) 全体事業費 H28:13,674千円(H27:12,121千円)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大 多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらい、本県能楽界の振興・発展につなげるために重要であることから、今後も「観能の夕べ」を継続するとともに、上演前に新たに能楽体験を行い演目に係る体験を行うことにより、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 杉森 蓉子
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 事業名 2016いしかわミュージックアカデミー
 - 2 期 間 平成28年8月17日(水)～26日(金) 10日間
 - 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
 - 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事)谷本正憲
 - 5 内 容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン55人、チェロ9人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生ソロ発表会(マスタークラス受講生)
 - (2) コンサート部門
 - ① IMAチェンバーコンサート
:アカデミー講師による室内楽コンサート(県立音楽堂)
 - ② IMAライジングスターコンサート
:IMA音楽賞受賞者及び世界的コンクール入賞者などによるコンサート(県立音楽堂)
 - ③ ミニコンサート
:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の特別支援学校、福祉施設等)
 - (3) 県内若手音楽家育成事業
 - ① 基礎クラス優秀者に対する特別レッスンの開催(IMA開催後に実施)
 - ② IMA講師による無料体験レッスンの開催
 - (4) フェロワーシップ制度
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	A			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	4,000	4,984	3,480	4,550	3,029	3,277

事業費						
(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	14,420	14,420	14,420	15,920	15,820
	決算	14,420	14,420	14,420	15,920	15,820
一般	予算	14,420	14,420	14,420	14,420	15,820
財源	決算	14,420	14,420	14,420	14,420	15,820
事業費累計		402,995	417,415	431,835	447,755	463,575

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、レッスンの一般公開のほか、IMA講師とOEKメンバーが共演するコンサートや受講生によるミニコンサートの開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 鑑賞者数 H28:3,176人、H27:2,924人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れている。このような効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち、事業を継続していくとともに、県内の受講生をさらに増やすため、県内の小中学生向けの体験レッスンなどを実施していきたい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等			

作	組	文化振興課
成	職・氏名	専門員 乾 康祐
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的
北陸新幹線の金沢開業と文化振興条例の制定を大きな契機ととらえ、首都圏をはじめ県内外の方々に藩政期より培われた本県が誇る質の高い伝統文化に触れてもらうため、四季折々に兼六園周辺文化の森で各施設の特長を活かしたイベントを開催する。

- 事業の概要**
- 1 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業の実施
 - (1) ミュージアムウィークの開催
交付先: 兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
 - ① 春季
時期: 4月29日(金)～5月5日(木・振) (GW期間中)
内容: いしかわ赤レンガミュージアムリニューアルオープン1周年記念事業、特別講演会など
 - ② 夏季
時期: 8月5日(金)～21日(日)
内容: デジタル掛け軸、ナイトコンサートなど
 - ③ 秋季
時期: 10月16日(日)「いしかわ文化の日」～11月3日(木・祝)「いしかわ文化推進期間」
内容: 伝統芸能に関する講演会と実演、スイーツ体験会など
 - ④ 冬季
時期: 平成29年1月下旬～2月上旬
内容: 食文化の歴史に関する講演会、食に関する映画上映会など
 - (2) 石川県・金沢市文化施設共通鑑賞パスポートの期間限定販売
対象施設: 県5施設(美術館、歴史博物館、四高記念館、からくり記念館、銭屋五兵衛記念館) 市16施設(中村記念美術館、能楽美術館、鈴木大拙館など)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	816,000	673,840	712,928	629,163	895,525	874,147

事業費					
(単位: 千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費					
予算	9,500	8,400	13,000	18,000	19,000
決算	9,500	8,400	13,000	25,644	19,000
一般	9,500	8,400	13,000	0	19,000
財源					
決算	9,500	8,400	13,000	0	9,500
事業費累計	57,532	65,932	78,932	104,576	123,576

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	ミュージアムウィークを年4回、四季折々に開催し、多彩な文化イベントや新規事業を展開した結果、季節に応じた趣向を凝らした鑑賞機会を提供することができた。また、本事業対象県施設の一日あたりの入館者数も、過去3年の平均と比較して約28%増となり、これまで文化施設に訪れたことのない方の掘り起こしやリピーターの増加に大きく貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	北陸新幹線金沢開業で増大した観光客をおもてなしし、「いしかわ文化振興条例」に定めた「県民が文化に親しむ機会の充実」を図るため、引き続き四季折々に魅力あるイベントを開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	ラ・フォル・ジュルネ金沢開催事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 菅谷内 梓		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的

フランス発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」は、2008年から金沢でも開催され、8年目となった2015年は、新幹線金沢開業後初の開催であり、全国から12万人以上の観客を集め、音楽愛好家の拡大だけでなく、交流人口の拡大や石川の音楽文化の発信といった面でも着実に成果をあげてきている。

今後も、本県の特長を生かした魅力ある公演を創意工夫し、この音楽祭を発展させていく必要があり、2016年も街なかや加賀・能登地域での公演の充実を図りながら、更に交流人口の拡大や地域の活性化につながる音楽祭として発展させていきたい。

事業の概要

- 1 事業名:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭2016
- 2 開催時期:平成28年4月28日(木)～5月5日(木祝) 8日間 ※4月上旬よりプレ公演を開催
- 3 会場: 金沢市内(金沢駅周辺、金沢市中心部等)、加賀・能登地区、富山県内、福井県内
- 4 テーマ:「ナチュラル-“自然と音楽”」
- 5 内容: オークストラ公演、合唱、室内楽、吹奏楽公演 ほか 174公演 (うち有料 70公演)
- 6 主な出演者:
 (国内) オークストラ・アンサンブル金沢、北陸三県をはじめとする全国の演奏団体 ほか
 (海外) プチョン・フィルハーモニック・オーケストラ(韓国)、バボラーク・アンサンブル(チェコ)ほか
- 7 来場者数: 109,609人
 ※2015年:122,024人 2014年:105,820人 2013年:103,322人 2012年:104,771人
 2011年:118,355人 2010年:108,916人 2009年:93,178人 2008年:83,830人
- 8 入場料: 500円～4,500円(低料金で設定)
- 9 総事業費: 179,502千円
- 10 他の開催地: 東京(5/3～5)、新潟(4/28～30)、びわ湖(4/29～5/1)

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	100,000	104,771	103,322	105,820	122,024	109,609

事業費					
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	17,976	43,000	43,000	53,000	53,000
一般	17,976	43,000	40,000	63,000	46,750
財源	17,976	13,000	13,000	23,000	13,000
事業費累計	45,976	88,976	128,976	191,976	238,726

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p> <p>10万人を超える来場者数を数え、ゴールデンウィークにおける地域の音楽祭として定着してきており、伝統芸能である能舞とクラシックの競演や、吹奏楽の日といった県民参加型プログラムなど、本県独自に企画する創意工夫を凝らした公演が、県民を始めとした観客に高く評価され、音楽ファンの拡大や地域の賑わい創出に寄与した。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">廃止</p> <p>ラ・フォル・ジュルネ音楽祭は、本県の独自性をこれまで以上に充実しようとする場合、他都市のラ・フォル・ジュルネ音楽祭と統一で設定されたテーマや、全国共通のプログラムを実施しなければならない制約がある一方、音楽祭の実施主体である県音楽文化振興事業団では、様々な事業を通じノウハウを蓄積しており、単独で音楽祭を開催するだけの力を十分につけてきたところである。</p> <p>したがって、平成29年度からは一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、地域に密着した、本県ならではの企画を盛り込んだ新たな音楽祭を開催し、石川の音楽文化を発信するとともに、地方創生にも寄与することとする。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子どものための音楽文化推進事業	事業開始年度 H28	事業終了予定年度 :
	根拠法令 ・計画等	

作 組 織 :文化振興課
成 職・氏名 :専門員 杉森 蓉子
者 電話番号 : 076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
子どもを対象に、音楽(クラシック音楽・邦楽)に親んでもらう機会を提供し、音楽を嗜む新たな県民の掘り起こしを図ると共に、県立音楽堂の入場者数及び利用率の増加に繋げる。

事業の概要

1 洋楽・邦楽リーフレットの作成・配布

(1) 目的
子ども(小学生)や洋楽・邦楽に無関心な層を対象とした手引書を作成・配布し、音楽文化に親しむ県民の裾野拡大を図る。

(2) 内容
・洋楽・邦楽とは?(歴史、楽器、編成等) ・代表的な作曲家とその代表曲
・鑑賞マナー ・音楽堂、オーケストラ・アンサンブル金沢の紹介 など

(3) 作成部数
各20,000部

(4) 配布先
県内小学生(6年生)、各市町、各種イベント(子どもいしかわ伝統芸能体験教室等)、音楽教室等

2 はじめてのコンサート開催(音楽文化振興事業団への基金補助金)

(1) 目的
既存の音楽堂コンサートを初心者向けのコンサートに仕立て、子どもや親子連れに、実際に足を運んでもらう。

(2) 特 徴
・リーフレット等を活用した丁寧なMC解説(楽器の紹介、鑑賞マナーなど)
・楽器体験コーナーの設置(開演前)

(3) 出 演
MC(青島広志など)、オーケストラ・アンサンブル金沢、石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブルほか□

(4) 備考
コンサート開催費6,000千円に対し、基金から1,000千円を補助
※基金補助対象・・・初心者向けコンサートに係るMC費用

施策・課題の状況							
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	13,500	12,679	11,609	13,200	12,225	13,700	
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	265,000	265,158	250,272	206,473	262,241	246,883	

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算					3,000
	決算					4,067
一般財源	予算					0
	決算					0
事業費累計			0	0	0	4,067

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	小学生等に対して、冊子の配布やコンサートの開催により、音楽(クラシック音楽・邦楽)に親しむ機会を提供し、音楽文化に親しむ県民の拡大に寄与した。 H28コンサート入場者数:1,009人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	音楽文化に親しむ県民の裾野拡大を目指し、引き続き、普段邦楽等に触れる機会の少ない子供たちを中心として、音楽に触れる機会を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子ども芸術鑑賞推進事業費	事業開始年度 S57	事業終了予定年度
	根拠法令 ・計画等	

作組織	文化振興課
成職・氏名	主事 毛利 優子
者電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操を育む。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
(公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
(公社)日本児童青少年演劇協会に委託 県内で9公演を実施
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉芙勢社中、藤間勘菊社中)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内6公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	13,500	12,679	11,609	13,200	12,225	13,700

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費					
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費 予算	4,231	4,231	4,231	4,231	4,231
事業費 決算	4,187	4,165	4,209	4,187	4,209
一般 予算	4,231	4,231	4,231	0	0
財源 決算	4,187	4,165	4,209	0	0
事業費累計	284,968	289,133	293,342	297,529	301,738

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県内の子どもたちにオーケストラや古典芸能など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性を育むことに寄与している。 H28鑑賞者数:8,619人(H27:7,215人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	県民移動能実施事業費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 橋岡 千春
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

事業の概要
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

内容
仕舞、舞囃子、狂言1番、能1番
開催市町の児童・生徒によるワークショップ

公演日、会場
①6月6日(月) 能登町立能都中学校第一体育館 (239人)
②6月28日(火) 野々市市立館野小学校体育館 (189人)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	13,500	12,679	11,609	13,200	12,225	13,700	
※～H26石川県文化振興基金事業 ※H27～いしかわ県民文化振興基金事業							
事業費							
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	
	決算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	
一般財源	予算	0	0	0	0	0	
	決算	0	0	0	0	0	
事業費累計		69,000	72,000	75,000	78,000	81,000	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会の少ない地域に能楽師が出向き、児童、生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供し、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。 県民移動能鑑賞者数 H28:428人(H27:541人) 公演回数 H28:2回(H27:2回)					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県を代表する古典芸能である能楽に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	専門員 橋岡 千春		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
 障害の有無に関わらず、伝統文化等に親しむことのできる環境の整備をすることで、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供する。

事業の概要

- 1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展
- 2 会 場 石川県立歴史博物館
- 3 期 間 平成28年12月3日(土)～9日(金) 7日間
- 4 対 象 主に障害者の方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民
- 5 内 容 彫刻展、ミニコンサート 等

これまでの見直し状況

H18:触れることが可能な伝統工芸品の展示

H19: " 歴史資料の展示

H20:朗読観賞会の充実(2回実施)

H21:音楽観賞会の開催

H22:音楽鑑賞会における体験コーナーの実施

H23:来場者が自由に参加できるワークショップを実施

H24:歴史資料等をクイズ形式で展示

H25:県立図書館職員によるおはなしの会(手遊び、パネルシアター等)を実施

H26:県立図書館職員によるおはなしの会(手遊び、ペープサート等)を実施

H27:親子彫刻ワークショップや、ガイドツアーを実施

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	B
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	13,500	12,679	11,609	13,200	12,235	13,700
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	600	480	400	1,000	1,000
	決算	600	480	400	1,000	1,000
一般財源	予算	600	480	400	0	0
	決算	600	480	400	0	0
	事業費累計	25,084	25,564	25,964	26,964	27,964
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性	B	平成9年3月に本県が制定した「石川県バリアフリー社会の推進に関する条例」を踏まえ、「ふれてみるいしかわの文化展」では、著名な彫刻家の作品をじかに触れて鑑賞する機会等を提供し、文化事業のソフト面においてもバリアフリー化を推進し、障害のある方も含めより幅広い層の県民に本県の文化に触れる機会を提供することに貢献している。			
	(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		入場者数 H28:1,309人(H27:1,397人) 平均入場者数 H28:187人/日(H27:200人/日) 入場者のうち障害者数 H28:145人(H27:99人)			
	今後の方向性	継続	芸術を鑑賞する機会が限定されがちな障害のある方にとって、本事業は芸術に触れる経験のできる貴重な場であることから引き続き実施し、バリアフリー社会に関する意識の向上と、芸術に親しむ県民の裾野拡大に繋げる。			
	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 杉森 蓉子
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大
 - 2 事業内容
 - (1) コンサートホール(13事業)
 - ・オルガンフェスティバル
 - ・ミルオト キクカタチ
 - ・ランチタイムコンサート 他
 - (2) 邦楽ホール(8事業)
 - ・音楽堂寄席
 - ・松竹大歌舞伎
 - ・ふれあい伝統芸能ランド 他
 - (3) 交流ホール(3事業)
 - ・おしゃべりクラシック
 - ・音楽堂室内楽シリーズ
 - ・カルチャーナビ(音楽堂アワー等)

計 24事業
 - 3 補助金額
15,000千円
 - 4 総事業費
174,400千円
 - うち県補助金 15,000千円
 - 自主事業基金取崩 50,000千円
 - 文化庁助成 44,100千円
 - 入場料・協賛金 65,300千円

施策・課題の状況							
施策課題	文化に親しむ環境づくり					評価	B
	文化に親しむ環境づくり						
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	265,000	265,158	250,272	206,473	262,241	246,883	

事業費						
(単位:千円)		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事業費	予算	17,817	15,847	15,000	15,000	15,000
	決算	17,817	15,847	15,000	15,000	15,000
財源	予算	17,817	15,847	15,000	15,000	15,000
	決算	17,817	15,847	15,000	15,000	15,000
事業費累計		94,033	109,880	124,880	139,880	154,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、石川の音楽文化の振興に寄与した。 H28入場者数 246,883人 (H27比▲15,358人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度 H2	事業終了予定年度
	根拠法令	
	・計画等	

作組織	文化振興課
成職・氏名	専門員 杉森 蓉子
者電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や、県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:ティエリー・エスケシュ)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシック音楽以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業や、他のオーケストラとの共演、芸術文化創作事業により作曲された新作現代曲を披露する演奏会を開催する。
・オペラ「蝶々夫人」
日時:平成29年1月22日 会場:金沢歌劇座

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年生から中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
オーディション:ピアノ部門 審査委員:井上音楽監督 他
演奏会:H28.5.15(H27選考:管・打・声楽部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況								
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	B	
課題	文化に親しむ環境づくり					指標	単位	人
	目標値		現状値					
	平成29年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度			
	265,000	265,158	250,272	206,473	262,241	246,883		

事業費						
(単位:千円)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業費	予算	10,700	10,700	10,000	10,000	10,000
	決算	10,700	10,700	10,000	10,000	10,000
一般財源	予算	10,700	10,700	10,000	10,000	10,000
	決算	10,700	10,700	10,000	10,000	10,000
事業費累計	304,400	315,100	325,100	335,100	345,100	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ジュニア・オーケストラおよびオーケストラアンサンブル金沢合唱団を、音楽祭やOEK定期公演へ出演できるレベルにまで育成し、本県の音楽文化を担う次世代層のレベル向上に貢献するとともに、オーケストラアンサンブル金沢楽団員等による実践講習会等を通じて、音楽文化の普及にも貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県民がオーケストラへの親しみを深める事業や本県の音楽文化を担う次世代層の育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図る上で、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫をこらしながら取り組んでいく。